

#ユースワーク  
#こどもの人権  
#居場所  
#地域の役割  
#専門性より関係性

“こども食堂”  
だけでええの？

中高生、若もんの  
居場所、もっと小田地区に  
いるんちゃう？！

- ✓ 無料！
- ✓ 単発参加OK！
- ✓ 定員限定30人！
- ✓ 交流の時間あり！

この秋、アマに新しい青少年センター「ユース交流センター」がいよいよ完成する  
みたい…。でも、1か所だけに、ごっついセンターができて、やっぱ中学校区に  
1つ、身近なところこそ、中高生や若もんの居場所って必要じゃない？

“こども食堂”をはじめ、小学生を中心とした「こどもの居場所」活動が、地域で  
めっちゃ増えてる今やからこそ、地域のみならず、「中高生や若もん」のことも、  
いっしょに考えたい、しゃべりたい！すでに活動してる人も、これから活動したい  
人も、とりあえず興味ある人も、みなさんの参加、まっています～！

日程とテーマ(全4回)\*くわしくは、うら面を！ @小田北生涯学習プラザ(尼崎市潮江1-11-1)

★第1回 2019年7月5日(金) 18時30分～20時45分  
「イマドキの中高生、若もんが置かれてる現状と、“地域”の役割。」

★第2回 2019年7月13日(土) 14時～16時30分  
「社会から排除されやすい若もんとともに、“公民館”の実践。」

★第3回 2019年7月19日(金) 18時30分～20時45分  
「中学校・高校内の居場所を通して、“学校”との関わりを考える。」

★第4回 2019年7月27日(土) 14時30分～17時  
「すぐそこに、話に行ける“居場所”がある、地域をつくる。」

【第1回】7月5日(金)  
18時30分～20時45分

【講師】竹田 明子さん  
((公財)京都市ユースサービス協会  
／チーフユースワーカー)



「中高生とか若もんって、思春期で反抗的？やし、それにもうオトナに近いし、自立させなあかんし…居場所とか、地域の関わりとか、ホンマにいるん？」義務教育が終わったり、就職する年齢の始まりやったり、中高生から上の若もんへの関わりや関心は、小学生までのそれとは違い、中々理解されにくい。

でも、今の社会の中で、この年代が直面させられてる課題は、実は多い。家庭や学校以外の場や視点で、“地域”がこの世代に関わる意味、強みって何があるんやろ。同じように地域で暮らす「わたし」だからこそ、できることって？

【講師】

【第2回】7月13日(土)  
14時～16時30分

井口 啓太郎さん  
(文部科学省障害者学習支援推進室(国立市派遣))  
宇佐美 理さん(国立市公民館青年室スタッフ)



同世代との地域での暮らし、学び、交流、あそびなどの機会を奪われている若もんたち。学校で、地域で、職場で、たとえば障害の有無で、その分離・分断は続いていく。だからこそ、若もん同士が「出会う」「学びあう」、そうした場を、地域が作ることで、何かが変わっていくかもしれない。

40年以上前から、“しょうがいを持つ青年と持たない青年”がともに活動する「コーヒーハウス」の活動を実践してきた国立市公民館。“だれもが”学び合える場としての「公民館」で、どのような実践を行い、そこで生じる葛藤をどのように乗り越えているのか。若もん同士が「出会う」場って？

【第3回】7月19日(金)  
18時30分～20時45分

【講師】阪上 由香さん  
(NPO法人FAIRROAD 代表理事)



“生きる力”をつける場としての学校、地域に開かれた場としての学校。でも、学校だけで“生きる力”は蓄えられないし、多くの中高生は学校の先生や家庭の保護者以外のオトナ、地域と出会う機会が、まだまだ少ない。そんな中で、中高生たちは、もがき、悩み、苛立ちながら、毎日を生きている。

今、大阪を中心に全国で実践される「高校内居場所カフェ」、そして高校の前から地域がつながりを持ち続けるアプローチとしての「中学校内居場所カフェ」。学校内空間で、中高生と関わりながら、そのサバイバルの日々に寄り添う中で、何が見えているのか。これからの、“学校”との関わりって？

【第4回】7月27日(土)  
14時30分～17時

【講師】木村 友香理さん  
(コミュニティ・スペースsacula 代表  
／社会福祉士)



ワンストップ相談にのってくれる様々な機関、いろんな設備が整って市内に1か所ある青少年センター。どちらも地域の資源として、子どもたちの役に立つためにある場所。でも、そこにいる人の顔が分からなかったり、暮らしている地域から遠かったり。それに比べ、すぐ行ける、ちょっと話ができる、そんな場がない。

スクールソーシャルワーカーとして活動しながら、京都市西京区を拠点に、地域の様々な人や場をつなげ、子どもたちにとっての「身近な」居場所を地域につくる中で、子どもたちの、どんな声が聞えてくるのか。地域だからこそ、できることって？“専門職”の役割って？

### 【お申込み】

- 📍 名前、参加人数、連絡先、所属(任意)、をお申込みください。
- ✉️ smile.kanzaki2006@gmail.com
- ☎️ 06-6439-6500(平日9時～17時)

